未就学児保護者との意見交換会



令和8(2026)年9月12日、14～18日
於：清和台公民館
午前10時～、11時～

本日の会の趣旨

本日の会では、
① 新しい学校の教育環境「中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境」で期待することや懸念事項について
② 先に小学校2校を統合することについて
の2点についてご意見をいただければと思います。
気軽にお話しいただける場にしたいと思っていますので、保護者の皆さまの考えをお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。

川西市立学校のあり方基本方針【望ましい学校規模】《令和7年3月地域説明会》

小学校　各学年2～3学級
中学校　各学年4～6学級

ア　児童生徒数が確保できるため、幅広い人間関係が構築でき、多様な考え方や選択肢が生まれ、切磋琢磨する機会が多くなる。

イ　複数の教員の視点で子どもを見て、教員同士が相談や協力をしながら学年を安定的に運営できる。

ウ　クラス替えができ、毎年、環境を変えることができるため、人間関係に困難さが生じたときも関係の再構築に繋げることができる。

エ　教員数を確保できることから、教員一人が受け持つ業務が軽減され、子どもと関わる時間が増える。

オ　同学年に複数の教員が配置できることから、学年担任制や教科担任制など、さまざまな指導方法の工夫がしやすい。

カ　中学校においては、免許外教科担任制度を活用する必要がなくなり、専門的な指導を受けることができる。

キ　児童生徒数や教員数が多くなりすぎないため、児童生徒同士や教員との関係性が築きやすく、また、学校施設の使用に制限なく教育を実施できる。

川西市立学校のあり方基本方針【検討の基準】《令和7年3月地域説明会》

（1）検討の基準

望ましい学校規模を満たさない状況となった場合、今後の教育環境について検討していきます。

ア 小規模校について

川西市の将来人口推計から考えると、今後、小規模校はより小規模化が進むと予測され、また全体に占めるその割合も増加する可能性があります。

今後、継続して学年が単学級となった場合は、教育委員会が地域や保護者との情報共有の場を持ちます。そのうえで、より良い教育環境をめざし、望ましい学校規模を実現するため、統合を含めて話し合いを進めていきます。

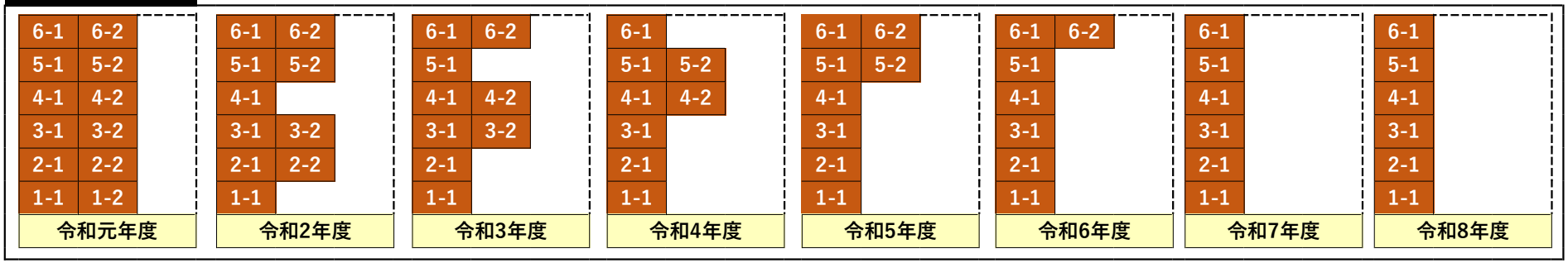
なお、継続して学年が単学級となっていない小規模校においても、各学校は学校行事や指導方法を工夫するなど、より良い教育環境となるように努めます。

イ 大規模校について

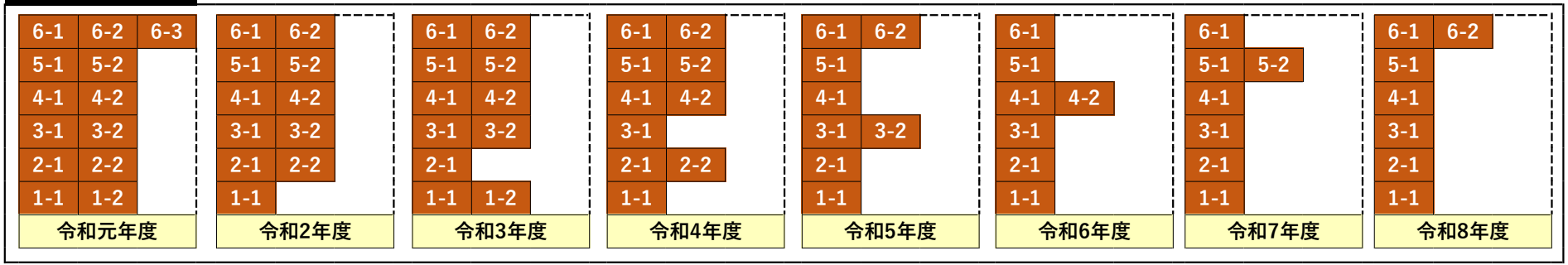
川西市の将来人口推計から考えると、今後、大規模校においても児童生徒数は減少することが予測されるため、望ましい学校規模を実現するための方策については検討せず、長期的な視野に立って、学校運営の状況を注視しつつ、各学校は状況に応じた取組みを行います。

清和台地区小学校　クラス数の推移　（令和元年度～令和8年度）

清和台小学校



清和台南小学校



清和台地区小学校　今後の児童数推移　（令和元年度～令和8年度）

清和台小学校

	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
1年	29	23	32	23	25	24
2年	32	29	23	32	23	25
3年	29	32	29	23	32	23
4年	23	29	32	29	23	32
5年	35	23	29	32	29	23
6年	27	35	23	29	32	29
合計	175	171	168	168	164	156

清和台南小学校

	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
1年	31	15	30	35	20	34
2年	30	31	15	30	35	20
3年	30	30	31	15	30	35
4年	27	30	30	31	15	30
5年	32	27	30	30	31	15
6年	26	32	27	30	30	31
合計	176	165	163	171	161	165

統合しない場合　小学校教職員配置【令和9年度以降】

通常の学級6クラス　特別支援学級2クラス
合計8クラス　⇒　教職員定員10人

県費

校長　養護教諭　事務職員

教職員定員　10人

1-1担任
2-1担任
3-1担任
4-1担任
5-1担任
6-1担任

教頭

音楽専科

特別支援①担任
特別支援②担任

県の目的加配

兵庫型学習システム
外国語、算数　専科　等

学校生活支援員

市費

スクールサポート
スタッフ

学校特別支援加配

生活指導相談員

学校図書館司書

統合する場合　小学校教職員配置【令和11年度】

通常の学級12クラス　特別支援学級3クラス
合計15クラス　⇒　教職員定員18人

県費

校長　養護教諭　事務職員

教職員定員　18人

1-1担任	1-2担任
2-1担任	2-2担任
3-1担任	3-2担任
4-1担任	4-2担任
5-1担任	5-2担任
6-1担任	6-2担任

教頭

図工専科

音楽専科

特別支援①担任　特別支援②担任
特別支援③担任

県の目的加配

兵庫型学習システム
外国語、算数　専科　等

学校生活支援員

市費

スクールサポート
スタッフ

学校特別支援加配

生活指導相談員

学校図書館司書

清和台地区の方向性について《令和7年12月地域説明会》

教育委員会の考え

「川西市立学校のあり方基本方針」に基づき、清和台小学校と清和台南小学校の児童がひとつの学校でともに学ぶ環境をめざす。その運営場所や開始時期に関しては、今後、少子化が見込まれる状況において、清和台地区の子どもたちが将来にわたって質の高い教育を受けられるように、引き続き、保護者や地域の意見を聞きながら進めていく。

具体的な理由

1. 学校教育においては、子どもたちがそこに集う人々を含め、多様な価値観に触れ、互いを認め合い、協力し合う経験を通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばす教育環境をつくることが重要である。このような教育環境を実現するためには、ひとつの学校でともに学ぶ環境が望ましい。
2. 各学年が複数クラスとなり、人間関係の固定化を防ぎ、トラブルが発生した場合でも関係の再構築に繋げることができる。
3. 清和台地区内は、児童が通学可能な距離である。また、必要に応じて通学支援を行うことで、環境の変化により通学の負担が大きくなる児童に対応できる。

清和台地区の方向性について 《令和7年12月地域説明会》

①教育環境と運営場所について

清和台小学校と清和台南小学校の2校がひとつの学校でともに学ぶ環境として、以下の3パターンの教育環境を中心に検討し、それが実現できる場所を選択していきます。

A 小学校のみの基本的な教育環境
B 中学校とのより密接な連携が可能な教育環境
C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

清和台地区の方向性について《令和8年7月地域説明会》

川西養護学校保護者の意見	清和台地区保護者の意見
学校の場所としては、川西・猪名川の中間地点である清和台地区が良いという声が多く、日常的に交流する機会を増やすことができるC案には、肯定的な意見が多かった。	少子化が進む状況の中で、いろいろな立場の人と出会い、学べる環境であるC案を選び、子どもたちにとって魅力的で良い学校をつくってほしいという意見が多かった。

A 小学校のみの基本的な教育環境

B 中学校とのより密接な連携が可能な教育環境

C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

教育委員会としては、多様な価値観に触れることのできる教育環境をつくることが重要と考えているため、今後の教育環境としては、C案が望ましいと考えている。今後はC案を中心に検討していき、保護者や地域に説明を行い、理解を得ていく。

その際の懸念事項

・早く統合してほしいという保護者の意見にどう対応するか。

今後の清和台地区の方向性について 《令和8年7月地域説明会》

C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

C案を検討するにあたっての前提条件

以下の条件で、検討を進めていく。

①運営場所

・第1候補地を、清和台中学校と川西養護学校を合わせた敷地で検討する。

②開校時期

・開校まで6年程度必要なため、令和14年度開校で検討する。

③学校の形態

・小中一貫校もしくは義務教育学校とし、川西養護学校を併設する。

清和台中+川西養護



敷地面積比較				
	①清和台中学校+川西養護学校	28,978㎡	②清和台南小学校	20,385㎡
	③清和台小学校	20,009㎡	④清和台中央公園	11,009㎡

清和台地区の方向性について《令和8年7月地域説明会》

②開校時期について

R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
方向性決定	新しい学校のコンセプト作成	新校舎設計	←	工事期間（3年）	→	新学校開校
	→		川西養護学校仮設へ移動	→	→	

構成メンバー

- 子ども
- 地域
- 保護者
- 教職員

※令和9年度は、子ども、地域、保護者、教職員の意見を集めながら、どのような学校にしたいか、新しい学校のコンセプトを検討する委員会を立ち上げ、1年間かけて検討していく。

清和台地区の方向性について《令和8年7月地域説明会》

③学校の形態について

小中一貫校もしくは義務教育学校とし、川西養護学校を併設する。

清和台中学校と新清和台小（仮称）に加え、現在の運営場所でのけやき坂小学校を含む3校で、施設分離型の小中一貫校または義務教育学校として運営する。川西養護学校は、現在の体制を維持し、単独で運営を行いながら、交流の場を設け、ともに学びあう環境をつくる。

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育

義務教育学校

・新たな学校種（一つの学校）
⇒１人の校長、
　１つの教職員組織

修業年限：9年
（前期課程6年＋後期課程3年）

小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が
　一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

小学校　6年
中学校　3年

どちらにも、施設一体型・施設隣接型・施設分離型の施設の形態がある。

清和台地区の方向性について《令和8年7月地域説明会》

C案で検討を進める際の今後の協議事項

1. 開校まで時間を要することについて

開校までに6年を要すると、現在の小学1年生は、卒業まで単学級のままということになる。
単学級に対して不安を感じる保護者も多くいたため、先に小学校2校を統合することも含めて解決策を検討していく。

2. 通学支援について

通学環境が変わり、負担が大きくなる児童に対し、スクールバスでの通学支援を実施する。通学の負担が大きくなる児童の数や地域について、現状把握を進める。

3. 川西養護学校の仮設校舎について

川西養護学校の校舎の建て替えが必要になるため、建て替えの間の仮設校舎が必要。川西養護学校の児童生徒が安全に学校生活が送れる場所を検討していく。

清和台地区の方向性について《今後の協議事項》

C案で検討を進める際の協議事項に対する検討案について

開校まで時間を要することについて

小学校の保護者への聞き取りの結果、清和台小学校と清和台南小学校の2校を先に統合する方が良いという意見が多かった。今後は、就学前の保護者へ聞き取りを進めていく。

※統合先は、清和台小学校を第1候補として検討する。

※統合時期は、令和11年度で検討する。

その際に検討すること

通学支援について

先に小学校2校が統合した場合、令和11年度よりスクールバスを運用し、通学の負担が大きくなる児童を支援する。

川西養護学校の仮設校舎について

2つの小学校のうち、統合により空いた校舎を仮設校舎とし、令和11年度2学期より使用できるように改修工事を実施する。

※仮設校舎は清和台南小学校の校舎を第1候補として検討する。

清和台地区の方向性について　《今後の協議事項》

先に小学校2校を統合した場合の推移について

現時点	◀－－－ 現状のまま運営 －－－▶		◀－－－ 小学校2校が統合 －－－▶			新学校開校
R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1(58人)
1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1(45人)	小2
2歳	3歳	4歳	5歳	小1(58人)	小2	小3
3歳	4歳	5歳	小1(62人)	小2	小3	小4
4歳	5歳	小1	小2(38人)	小3	小4	小5
5歳	小1	小2	小3(60人)	小4	小5	小6
小1	小2	小3	小4(62人)	小5	小6	中1
小2	小3	小4	小5(59人)	小6	中1	中2
小3	小4	小5	小6(50人)	中1	中2	中3
小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1
小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2
小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3

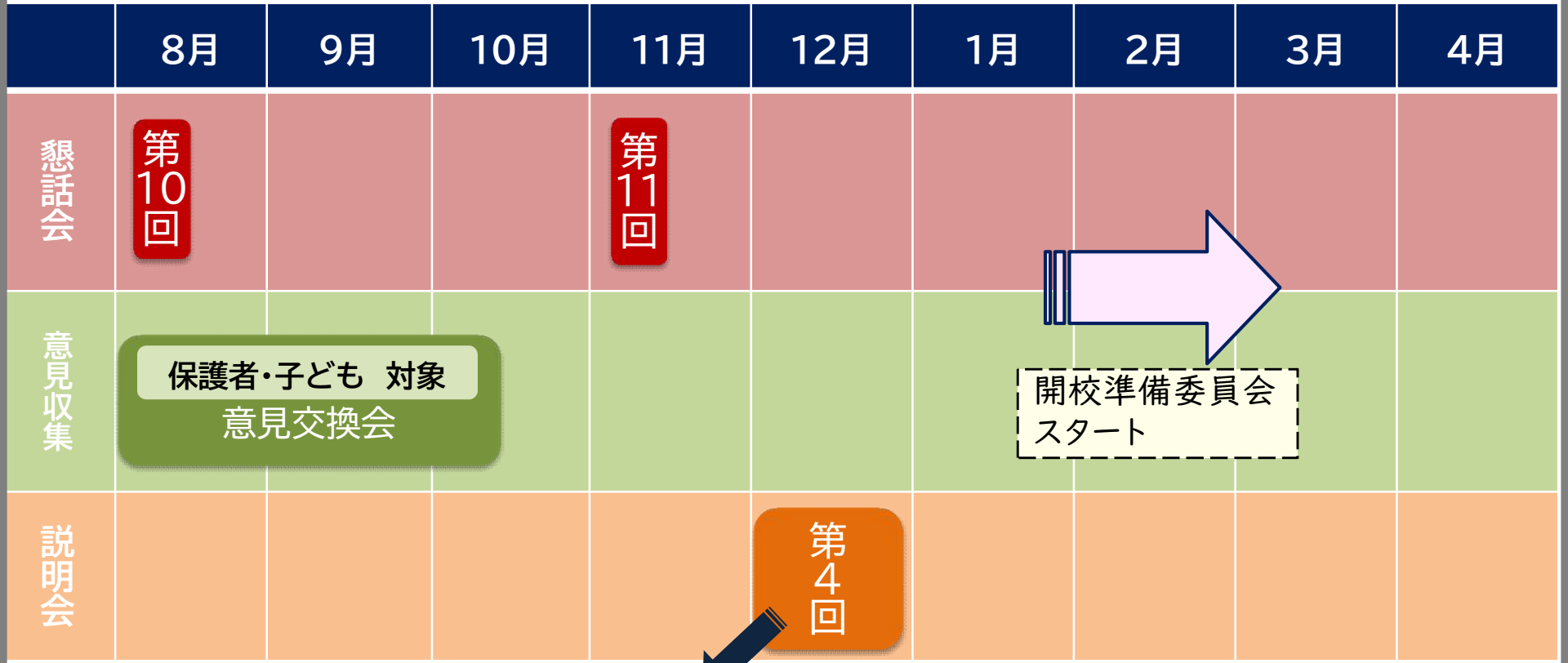
※(例)【R8年度】5歳　→　令和8年度中に6歳になるお子さま(令和8年4月1日時点で満5歳のお子さま)

清和台地区の方向性について《今後の協議事項》

先に小学校2校を統合する場合の流れについて(案)

	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
清和台中		新校舎設計		改修工事 →		新学校開校
川西養護学校	新学校のコンセプト作成	新校舎設計	児童生徒仮設校舎へ（2学期）	9月 解体 その後、新設工事 →		
清和台南小		川養仮設校舎 設計・改修工事 → 児童清和台小へ		川西養護学校 運営		跡地活用
清和台小		統合のための環境整備	清和台小・清和台南小 統合 清和台小で運営			

清和台地区の今後のスケジュール



未就学児保護者との意見交換会について 《以降10月追記》

未就学児保護者 意見交換会	9月12日（土）、14日（月）～18日（金） （10:00～11:00、11:00～12:00） 【参加人数】 23名
アンケート	8月20日～9月6日 【回答】 34名

意見交換会、アンケートの中では、令和11年度に実施を検討している小学校の先行統合についてご意見をいただきました。

次ページ以降は、先行統合についていただいたご質問に対する教育委員会の案となります。

なお、次ページ以降は、第1候補である清和台小学校への統合と仮定して資料を作成しておりますが、逆に清和台南小学校へ統合した場合においても、同様の課題が生じると認識しております。

先行統合にあたっては、いずれの場所を選択した場合でも、現在よりも通学距離が遠くなるご家庭が出てくることは避けられません。可能な限り負担を軽減できるように、検討を進めてまいります。



放課後留守家庭児童育成クラブの設置案について

①留守家庭児童育成クラブ(学童)について

留守家庭児童育成クラブ(学童)は、現在、各校で以下のような時間割で過ごしています。学校がある日は学校が終わり次第、土曜日や長期休業中は朝から利用することができます。

学童時間割(学校がある日)

例

校時	終了時刻
1時間目 ～ 4時間目 給食	
昼休み	13:00～13:20
5時間目	13:20～14:05
6時間目	14:10～14:55

	留守家庭開所
1年生	13:20～ 1年生が過ごす
2、3年生	14:05～ 1～3年生が過ごす
4～6年生	14:55～ 1～6年生が過ごす

17:00 一斉下校

※習い事など、途中で帰る時は個人で帰ります。

※17:00以降は、保護者の迎えで帰ります。

学童時間割(土曜日、長期休業中)

8:00～	各自で登校 育成クラブで過ごす
12:00～	昼食 育成クラブで過ごす

17:00 一斉下校

※土曜日は延長無し

※長期休業日などは延長あり

放課後留守家庭児童育成クラブの設置案について

案1 統合先の小学校で学童を開設する

留守家庭児童育成クラブをも清和台小学校で開設する。育成クラブ終了後、スクールバスで登校している児童はスクールバスで乗車場所まで送り、そこから各自下校する。

清和台小（学校生活を送る）

学童【校舎内】



学童

例

17:00 スクールバス出発



児童クラブ終了後
スクールバスで
乗車場所まで送迎





歩いて下校

メリット

・仲の良い友達と一緒に過ごすことができる。
・学校が終わり次第、自分で育成クラブに行ける。

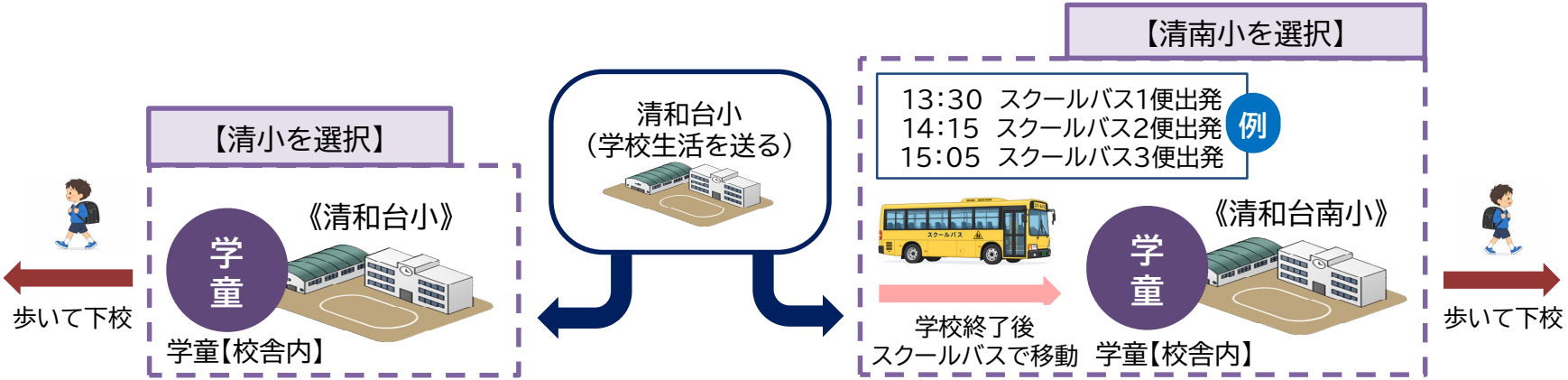
デメリット

・途中で帰りたい時にバスが出ないため、途中で帰ることができない。
・清南小の保護者が迎えに行く時、自宅から遠い。

放課後留守家庭児童育成クラブの設置案について

案2　清和台小、清和台南小それぞれで学童を開設する

留守家庭児童育成クラブは清和台小、清和台南小の各小学校で開設し、選択できるようにする。
学校終了後、清南小で学童に通う児童はスクールバスで清南小に移動する。



メリット
- スクールバスの時刻に関係なく、自分の下校したい時間に下校できる。
- 延長する際、保護者が迎えに行きやすい。

デメリット
- 仲の良い友達と離れる可能性がある。
- 普段生活する学校とは別の校舎で過ごすことになる。

スクールバスの乗車場所について

② 案1 スクールバスの乗車場所を学校にする

※あくまで1つの案であり、別の乗車場所も考えられます。詳しくは令和9年度の開校準備委員会で話し合い、決定していきます。

保護者がスクールバスを一緒に待つことは難しいため、現状と同じように、自宅で子どもを送り出せる方が良い。集合場所を清和台南小学校とすると安全に通える。

現状 7:30～50頃に家を出発 → 登校班、または各自で登校 → 8:00～8:15清南小到着



統合後 7:30～50頃に家を出発 → 登校班、または各自で登校 → 7:55～8:10清南小到着 → スクールバス（5分） → 8:05～8:15清小到着





8:00　スクールバス第1便出発（家が近い児童）
8:10　スクールバス第2便出発（家が遠い児童）

メリット

・現在とほぼ変わらない時間に登校できる。
・保護者の負担を軽減できる。
・小学校での乗車になるため、安全に乗車できる。

デメリット

・清和台南小学校集合となるため、清和台南小から遠い児童に負担がかかる。

小学校2校の先行統合について

先行統合について教育委員会で検討した内容

	検討（案）		検討結果　○…メリット　●…デメリット
①	小学校　→　清和台小学校の校舎を使用して統合 川西養護学校　→　清和台南小学校の校舎を仮設校舎として使用	清小　→そのまま 清南小→清小 川養　→清南小	○清南小は1階に教室が多いため、川養が使用する仮設のプレハブ校舎を建てなくて良い。 ○川養の児童生徒が小学校の校舎を使用できるため、過ごしやすい。 ○川養のバスが敷地内に乗り入れしやすい。 ●校舎の改修やエレベーターの設置費用がかかる。（約1～2億円） ※仮設利用後も避難所として利用可能。
②	小学校　→　清和台南小学校の校舎を使用して統合 川西養護学校　→　清和台小学校の校舎を仮設校舎として使用	清小　→清南小 清南小→そのまま 川養　→清小	○清小の体育館が1階のため、川養の児童生徒が体育館を使用しやすい。 ○清南小の方が校舎が後に建てられた分、若干新しい。 ●清小の敷地に入る坂が急なため、川養のスクールバスが乗り入れできるように改修が必要。 ●清小の現校舎では川養の教室が確保できないため、仮設のプレハブ校舎の建設費用がかかる。（約6～7億円）※3年後に取り壊し。
③	清和台南小学校の校舎で清和台小、清和台南小が統合し、川西養護学校と一緒に過ごす。	清小　→清南小 清南小→そのまま 川養　→清南小	●川養および小学校の各学年2学級分の教室と、必要となる特別教室を確保できないため、具体的な検討には至っていない。
④	先行統合せずに、交流授業や行事を実施する。清和台南小は川西養護学校と一緒に過ごす。	清小　→そのまま 清南小→そのまま 川養　→清南小	○住居に近い学校に通うことができる。 ●単学級が解消できず、クラス替えができない。 ●年に数回の交流になるため、交流を深めることには限界がある。